新たな闘いをはじめよう！

―安保反対闘争をふりかえって―

東海民衆センター　佐伯昭二

悪名高き一連の安全保障法案は、９月１９日の未明、参議院において強行採決され可決されてしまった。強い憤りを感ずるが、何もがっかりしたり悲観することもない。これからまさに新しい闘いが始まるのだ。いままでとは質が違う新しい闘いが始まるのだ。そこでこの間の出来事を私なりにふりかえって今後の糧にしたい。

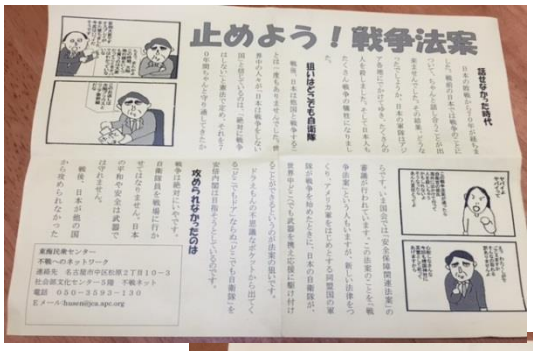
土曜日連続街頭宣伝行動の提起

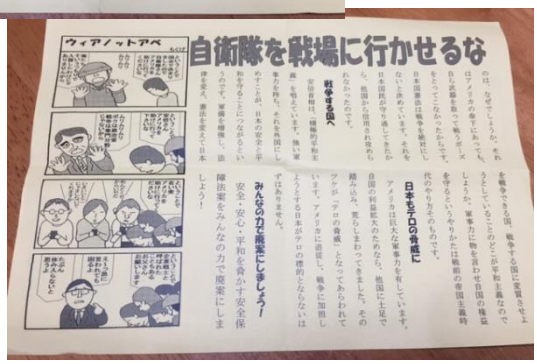
闘わねばならないことは頭でわかっていながらも、具体的にはどのように闘っていくべきか！自分なりに思考錯誤していたところ、今年の５月、金安さんから「５月１６日以降、不戦ネットと東海民衆センターで毎週土曜日に連続街頭宣伝行動を栄でやることを不戦ネットの会議で決めたので協力をしてほしい」との連絡を受けた。最初、その話を聞いたとき「えっ！チラシは誰がつくるの？宣伝カーは誰が手配するの？参加体制はとれるの？」などの疑問が湧いた。それらの疑問を金安さんにぶっつけたところ、金安さんは「佐伯さん、参加者は少なくてもいいんです。いまは声を上げることが大事なんです。私一人でもやる決意です」との返答。その言葉を聞いて、私は納得すると同時に、自分の感性の乏しさを恥じた。それにしても金安さんの発想とその豊かな感性には敬服するのみである。

５月１６日に第１回を開催した。たしか１８人の市民が集まった。２団体以外からも多くの参加者があり、「これならできる」という確信を得た。それから私は東海民衆センターの友人らに参加を逐次メールなどで呼びかけた。７月からは「戦争をさせない１０００人委員会あいち」も参画していただき、より強力な体制が出来上がった。毎回、新しい参加者も増え、演説も途切れることなく続き、参加者にとって勇気と元気がでる行動となった。

安倍内閣の暴走を止めよう共同行動実行委員会の果たした役割

東海（愛知・岐阜・三重県）の活動を語るとき、この共同実行委員会の活躍なくしては語れない。中谷弁護士らの深い度量が、団体、組織の枠を越えて大同団結し、かつてない活動の盛り上がりを見せた。９月５日、白川公園での集会（愛知県弁護士会主催）は、６０００人の参加者が結集となる大きな成果をあげた。そして９月１５日以降の総がかり行動だ。栄スカイルの前には、道の両サイドに連日１２０人の市民、労働者によって、スタンディングを行なった。すごい迫力と熱気であった。「これなら廃案にできるかも」との想いを強くした。それまでのムードが、がらりと変わったことを感じた。その場でも演説させてもらい、参加者から拍手をしてもらうなど最高にいい気分であった。





漫画入りのユニークなチラシ

新しい闘いの開始だ

９月１９日強行採決されたが、これから安保法の廃止を求める新たな闘いの始まりである。今回の一連の闘いで市民はようやく立憲主義・平和主義・民主主義というものを自覚することができた。これは今後の闘いを展望するうえで「希望の光」だ。これを母体としながら①全国的な無数の違憲訴訟の提起②自衛隊海外派兵の阻止行動。小牧からＣ－１３０を飛ばさせない闘い　③来年７月の参議院選挙で野党が勝利し、その余勢をかつて早期に衆議院の解散・総選挙に持ち込み、安倍自公政権を退陣させ、新しい政権をつくり安保法を廃止させることである。それに向けてすでに野党の協力共同行動が、呼びかけられているので期待したい。こう考えるとわくわくしてくる。さらに共に闘わん！